



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1966 年 1 月 15 日

●例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
●例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
大垣共立銀行 高山支店 4F

●会長 鍋島 勝雄
●幹事 中村 良平
●会報委員 栗原 藤義



「遅れ咲きのひまわり」 蜘蛛 康介

高山 3 RC 合同ガバナー公式訪問例会

9 月 13 日(月) 12:30~ ひだホテルプラザ

司会進行 高山中央 RC 幹事 大保木 正博

<プログラム>

点 鐘 高山中央 RC 会長 清水 幸平

高山 RC 第 2700 回

高山西 RC 第 2179 回

高山中央 RC 第 852 回

ロータリーソング 奉仕の理想

ゲストの紹介 高山中央 RC 会長 清水 幸平

国際ロータリー第 2630 地区ガバナー 桑月 心 様

国際ロータリー第 2630 地区代表幹事 西野 徹 様

国際ロータリー第 2630 地区

岐阜県濃飛分区ガバナー補佐 伊藤 松寿 様

地区役員の紹介 高山中央 RC 会長 清水 幸平

地区会計長/財務副委員長 青山 真琴 様

インターアクト副委員長/地区幹事 若田 一博 様

青少年育成副委員長 伊藤 正隆 様

地区大会実行委員長 岩堤 慶明 様

地区幹事 山下 英一 様、

新谷 尚樹 様、住 宏夫 様、佛坂 直哉 様、

河渡 正暁 様、久々野 国良 様、剣田 広喜 様

食 事

会長の時間 高山中央 RC 会長 清水 幸平

出席報告 各クラブ出席委員長

ニコニコボックス 高山中央 RC ニコニコ委員長

歓迎の挨拶 高山 RC 会長 住 吉人

ガバナー紹介 伊藤 松寿ガバナー補佐

ガバナー卓話

謝 辞 高山西 RC 会長 鍋島 勝雄

点 鐘 高山中央 RC 会長 清水 幸平

* 写真撮影 3 RC 合同

<会長の時間>

高山中央 RC 会長 清水 幸平



本日、ガバナー桑月 心様を始め、地区の役員の皆様方をお迎えし、高山 3 RC 合同のガバナー公式訪問例会を開催することができ、たいへん光栄に存じます。本日はいろいろとご指導を宜しくお願いいたします。

さて、来る 10 月 2 日には高山西 RC 主管の濃飛分区 IM が、続いて 10 月 23 日~24 日には高山 RC がホストクラブの地区大会がそれぞれ開催されます。高山 RC の皆様、また高山西 RC の皆様には、最後の準備にお忙しいことと存じます。それぞれが素晴らしい大会となり盛会のうちに進行されますことを心よりお祈り申し上げます。私たち高山中央 RC もできる限りの協力をさせていただきますので宜しくお願い致します。

さて、会長の時間をいただいて、蝶の話をしていただきます。皆さんはアサギマダラという蝶をご存知でしょうか。日本昆虫学会による国蝶選定の際に、候補に選ばれました。残念ながら国蝶はオムラサキが選定されました。

アサギマダラの成虫は春の北上、秋の南下を繰り返す「渡り」をする蝶として知られています。日本各地で見られますが、越冬できるのは温暖な地域に限られます。しかし、その移動の範囲の全貌はまだ明確でなく、謎になっています。そこでこのアサギマダラの移動の謎を調査しようという仲間が全国各地にいます。高山でもアサギマダラの観察会が 8 月末に高根でありましたので参加してきました。

移動の研究は、捕獲した成虫の翅の半透明の部分に捕獲場所・年月日・連絡先などを油性ペンで記入(マーキング)し、放蝶するという方法で個体識別を行います。このマーキングされた個体が再び捕獲された場所・日時によって、何日で何 km 移動したかを調査し

地域を育み大陸をつなぐ

例会報告

ます。このような調査により、夏に日本本土で発生したアサギマダラは秋になると南西諸島や台湾まで南下、また繁殖した子孫が春に北上し、日本本土に再び現れるという行動が明らかになりました。中には直線距離で1,500km以上移動した個体や、1日あたり200km以上の速さで移動した個体もあります。高山でも過去にマーキングした蝶が、長崎県の五島列島や鹿児島県日置市等で捕獲されています。

こうやってみてみるとアサギマダラは、レイ・クリンギンスミス会長のRI会長テーマである「地域を育み、大陸をつなぐ」の象徴のような蝶だと思いますが如何でしょうか。

アサギマダラは日本各地の自然の中で育まれて、幼虫から蛹となります。そして羽化し美しい蝶となって空を羽ばたきます。ヒヨドリバナやフジバカマなどの花の蜜を吸いながらふわりふわりと空を舞い南を目指して日本各地を縦断します。そしてついには南西諸島、台湾にまでたどり着くのです。

自然の世界は、さまざまな生きものを育み、そして命のつながりを持っています。私たちはRI会長テーマを再確認し今後のクラブ運営に活かしていきたいと思えます。少しこじつけの感はしますが、本年度のRI会長のテーマに似つかわしい物語ではないかと思ひアサギマダラの話をしていただきました。

ご清聴ありがとうございました。

<出席報告>

高山RC 会員数43名 欠席者7名 出席率82.93%
高山西RC 会員数45名 欠席者8名 出席率82.22%
高山中央RC 会員数49名 欠席者6名 出席率87.50%

<ニコニコBOX>

高山中央RCニコニコボックス委員長

国際ロータリー第2630地区ガバナー 桑月 心 様

国際ロータリー第2630地区代表幹事 西野 徹 様

本日はよろしくお願ひします。

国際ロータリー第2630地区岐阜県濃飛分区ガバナー補佐

伊藤 松寿 様

高山3クラブの皆様大変ご苦勞様です。よろしくお願ひいたします。

高山RC会長 住 吉人 様

高山西RC会長 鍋島 勝雄 様

高山中央RC会長 清水 幸平 様

本日は桑月ガバナー様、お忙しい中ご来訪いただき、誠にありがとうございます。よろしくご指導の程お願ひ致します。

<歓迎の挨拶> 高山RC会長 住 吉人

本日の3クラブ合同ガバナー訪問例会には、私どもから出ております桑月心ガバナーを地元でもございませぬ高山の地にお迎えする訳です。



いつもと違ひまして、本人にとりましても、私ども高山ロータリークラブといたしましても、どんな歓迎のことばも見当たらなく、大変難いと感じております。

来月の23～24日と高山で開催されます国際ロータリー第2630地区の地区大会が本日お集まりの会員諸兄のご協力の中で、大成功に導かれることが、桑月ガバナーにとりましても何よりも、歓迎のしるしだと思っております。

桑月ガバナーには何卒、それまで、その成果を楽しみに待っていただき、本日のガバナー公式訪問が意義ある例会であることをお願ひ申し上げ歓迎のことばにはなりません、歓迎のご挨拶とさせていただきます。



<ガバナー紹介>

濃飛分区ガバナー補佐 伊藤 松寿 様

ロータリーの友7月号に西野代表幹事さんが書かれたガバナー紹介が掲載されておりまして、そちらを参考としながらご紹介いたします。

第2630地区の最も北にある高山RCから、森パストガバナー、久金パストガバナーに続く3人目のガバナーが誕生しました。

桑月さんは高山市の北に隣接する飛騨市の、地元では「三寺まいり」という年中行事で有名な三寺のひとつ、浄土真宗本願寺派「本光寺」の住職を務めていらっしゃいます。亡きご尊父が布教のため渡米したため、アメリカのカリフォルニアで生まれ育ち小学4年生で帰国した、今で言う帰国子女です。そのため英語が堪能でアメリカ的な考え方や、日本的な考え方の両方ができる国際的な感覚を持つ方です。

私と同じ年、1948年、昭和23年の生まれで、また私と同じく昭和42年3月に地元の斐太高校を卒業。その後桑月さんは大阪外国語大学モンゴル語学科に進まれ卒業後は本光寺のご住職として活躍されてきました。

1992年、高山ロータリークラブに入会され、その後は地区インターアクト委員長や、ロータリー財団奨学金委員長など地区役員を歴任。

そしてこの度2010-2011年度国際ロータリー第2630地区ガバナーに就任されています。

例会報告

＜ガバナー卓話＞

ガバナー 桑月 心 様



ただ今、伊藤ガバナー補佐からご紹介いただきました。私と彼は高校2年時はクラスも一緒でもあり、今日は比較的にリラックスした雰囲気話で話をさせていただきます。

今、RIで言われております事には、財団未来の夢計画、会員の増強問題、3年以内の新会員への研修、そして第5の奉仕部門として制定された新世代、青少年部門があります。

これらに関し、現RI会長のレイ・クリギンスミス氏は今年3月「これから行うクラブの奉仕事業はより大きく、より良く、そしてより大胆に培ってもらいたい」とおっしゃいました。しかし9月号のロータリーの友には「より大胆に」の部分が「より力強く」に日本語訳がかわっていました。

こういう例は沢山あります。顕著な例として今年のセミナーで紹介させていただきましたが、今CLPの中でよく「長期計画」と言いますが、もともとの原語は戦略的計画という意味です。問題があるのなら、戦略を立てる、そしてそれを実現するため戦術が必要、と言うことです。この単語は、「戦略上の」とか「戦術面」とか、大学のマーケティング理論に出てくるもので、しかも元々は軍用語である、ということです。では戦略計画がなぜいつの間にか長期計画になったかと言いますと、国際協議会の同時通訳が、平和を愛するロータリーとしてはあまり戦略とか戦術とか、軍事的な言葉ばかりはまずいのではないかと、とつさに、軍事面を緩和した「長期計画」と訳しなおしたのではないかと思われ、それがそのまま、日本のロータリーでは残っています。しかしアメリカやヨーロッパに行きますと、長期的なビジョンとか長期的使命と言った言い方はしますが、言語的には皆、戦略計画と言います。

私自身も高山クラブで会長を務めさせていただきましたが、その時は必死で、とにかく無事にその年度が終わってくれば…、と考えていました。これは、ロータリーは単年度、と言う考え方からです。もう一つ、3年位の中期計画、そして今はやりの5年程度の長期計画、

とあり、私たちは、単年度、中期、長期は全く別のもの、という認識があり、CLPの一環としての長期性と考えてしまっていますが、根底では、ロータリーの理念は、単年度、中期、長期、すべてが繋がっています。

ひとつの例えとして申し上げますと、この辺りでは宮川、私の家のそばでは荒城川になりますが、川をじっと上から眺めてみますと、大きな泡もあり、小さな泡もあり、また泡の形をなす前に弾けてしまう瞬時の泡もあります。しかし弾けた後の泡はどうなるかと言いますと、いずれの場合であっても、みなまた元の川に流れます。泡と川とは区別はできますが、切り離すことは絶対に出来ません。

私たちがロータリーの奉仕の理念を具現化していく中で、単年度、中期的、長期的と表現の仕方はいろいろありますが、切り離して考えることはできません。人を大事にするという、その結果に基づいて現れる色々なプロジェクト、奉仕の結果は区別出来ても、底のほうでは川の流れのようにしっかりつながっているということを認識して下さい。川をロータリーの精神と思って下さい。奉仕活動を通して、奉仕の理念を実現するという方向性を出していただければと思います。

また注意しなければならないのは、RIでは発展途上国のニーズと言ひ、それを受け止めて活動するわけですが、ニーズというのは言ってみれば原因です。ところがニーズだけでは絶対に成果は出ません。その原因をささえる条件・状況の組み合わせがあつて初めて成果が出ます。一つの例としては、仏教でいうところの種と実の関係です。種というのは実のなる第一条件ですが、水、と太陽の光、肥沃な土地が絶対に必要です。それらの条件、状況の組み合わせがあつて始めて結果・成果を生むのです。

他のロータリーの問題でもそうです。日本のロータリーでは100年以上前から言われ、今日でも言われる「個人奉仕か、団体奉仕か」

「I serveかWe serveか」。これも今言ったことと同じではないかと思ひます。私たちの個人の仕事、ロータリー用語で言うところの職業奉仕に対し、目に見える・もっと大きい・アメリカ的で派手で宣伝向きの団体奉仕、どちらがどうか、という問いがありますが、今年の規程審議会で取り上げられて、ロータリーの奉仕活動の哲学だ、根源だと可決された決議23-34の第一条を見ても、世界の心ある人たちは、私たち日本人と同じように受け止めていると思ひます。

決議23-34は、皆さんご存じの通り社会奉仕派と理論派との対立を緩和するために作られた有名な決議ですが、日本では特に23-34の決議を大事にして今日まで活動をしてきています。私たちは高い倫理性を持って、個々のそれぞれの職業を通して社会に貢献する、クリギンスミス氏の言うところの地域を育む事が重要であると考えます。今年の国際協議会では職業奉仕に関するスピーチが3人からさ

例会報告

れました。去年までこんな事はありませんでした。ここに来てようやくRIでも、過去を振り返り、職業奉仕の重要性に対する気づきがあったのではないかと考えています。

話を元に戻しますと、職業奉仕と社会奉仕も区別は出来ても、絶対に引き離すことができない。それをきちんと受け止めねばならないのでは、と思います。

最後に、持続的成果とか、継続性とかと近年言われる件についてお話をさせていただきます。

私は学生時代、国文学を専攻している友人に京都の東山の山の中に無理やり連れて行かれましたが、そこはあの方丈記を書いた、鴨長明の庵の跡でした。いわく『ゆく川の流は絶えずして、しかも元の水にあらず』。川の流は絶えぬ。しかし元の水ではなく、常に変化している。一瞬前の水は一瞬後の結果の原因であり、それも瞬時に消えてしまう。しかし全体として持続的・継続的な一つの川の流はかわらない。

私たちが全く同じです。今はやりの5年位の長期計画、中期、そして単年度のもの。すべて終わった瞬間に完結し消えてしまう気がしますが、現象としては継続的に流れていきます。単年度計画であろうと、中期のものであろうと、私たちは自信を持って奉仕の理念を顕現するように努力してまいりましょう。

<謝辞>

高山西RC会長 鍋島 勝雄



本日は、第2630地区ガバナー一桑月心様、地区代表幹事西野徹様、濃飛分区ガバナー補佐伊藤松寿様をはじめ、地区委員会委員長・委員、地区幹事をお迎えして、公式訪問例会を無事に終えることが出来有り難うございました。

非常に厳しい現状の中で活動を生かして行く課題の多い中、有意義な指導を頂き有り難うございました。

10月2日の我がクラブ主催のIMには、全員登録を戴き有り難うございます。有意義な大会を行いますのでご期待ください。又、10月23・24日の地区大会に向けてガバナーを始め、高山RCの皆様ご苦勞様です。大会が大成功するように3クラブが一体となり協力をさせていただくことをお約束します。

任期満了まではまだまだ忙しい日々が続きますが、ご健康には充分留意され、地区のためにご指導いただくことをお願いして、甚だ簡単ではありますが、本日の御礼の挨拶とさせていただきます。有り難うございました。



地域を育み大陸をつなぐ